

例会報告 Rotary



国際奉仕委員会

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 下屋勝比古
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 塚本 直人
- 大垣共立銀行高山支店 4F
- 会報委員長 挾土 貞吉

世界に希望を生み出そう

<会長の時間>

3月も中旬になったというのに、気温が下がりますかの除雪をする羽目になりました。体調の管理には、十分ご注意ください。手足を冷やすと思った以上に寒く感じます。保温には努めながら、腹八分目にして養生に心がけましょう。姿勢も大切ですが正しい姿勢を続けることはむづかしいです。時々でいいので、大きく背伸びをはじめ肩甲骨を動かしてください。肩甲骨は肩の甲羅の骨と書きますが、手軽に効果的に動かせば効果絶大な骨ですので健康骨をどんどん動かしてみましよう。



さて、先週は例会をお休みして、2610地区の原 ガバナーからお誘いいただきましたので被災された七尾クラブへ平 康裕さんと一緒に行ってきました。詳しい報告はいずれさせていただきますが、行かないと分からない地震の爪痕を実際に見て感じてきました。

昨年からは現役ガバナー5名の方に直接お話を伺う機会がありましたが、どの方もロータリーについての知識はもちろん人柄も気づかひも素晴らしい方ばかりです。下品な宴会をしたとって国会議員がたたかれています、伝統と品格あるこのクラブが皆さんの学びの場となり、会社や家族そして地域に還元していかれることを願います。

新会員の皆様は、まだまだ聞きなれない言葉や委員会が回ってきますが、次年度以降また新しい委員長に指名された方は、その分野のスペシャリストである経験豊かな会員に遠慮なくご相談いただき、活発な例会運営にご参加ください。

<出席報告>

出席者数	会員数	出席率
25名	36名	73.53%

<本日のプログラム> 国際奉仕委員会

委員長 野尻 陽子

本日の国際奉仕委員会担当例会には、高山市飛騨高山プロモーション戦略部観光課長 山郷 三昭様にお越しいたごき、高山市の観光政策について卓話を頂きます。略歴をご紹介します。



山郷様は、商工観光部商工課や環境政策部環境政策推進課等を経られまして、現在観光課長でいらっしゃいます。どうぞよろしくお願いたします。



<幹事報告>

◎ロータリー米山記念奨学会、およびガバナー、ガバナーエレクト、地区米山奨学委員長より

- ・世話クラブ委嘱状、およびカウンセラー委嘱状

高山西RCおよび伊藤 松寿 さんへ

- ・米山記念奨学生カウンセラー研修会・オリエンテーションのご案内
- 日時 4月 7日(日) 10:00~14:15
場所 安保ホール 名古屋市中村区名駅



<受贈誌>

高山RC(会報)、下呂RC(会報)、ロータリー米山記念奨学会(ハイライトよねやま vol.288)、(株)オクトン(2024ロータリーカタログ)

高山市の観光政策について

高山市飛騨高山プロモーション戦略部観光課長 山郷 三昭 様

皆様こんにちは。ただいまご紹介いただきました、高山市飛騨高山プロモーション戦略部観光課長の山郷と申します。日頃は、高山を代表する皆様には市の行政全般に対しまして、格別のご理解ご協力ご指導賜りまして誠にありがとうございます。本日このような場でお話をする機会を頂きまして、何分不慣れではございますが、現在の高山市の状況、特にインバウンドに関するこれまでの取り組みですとか、今後高山市として、どういった観光の取組を進めていくかの方向性について、少しでもお話できればと思いますので、お時間を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願いたします。私自身、ご紹介いただきました通り元々出身は丹生川で、丹生川村役場から合併で市の職員となりました。昨年まで長く環境部門におりまして、今年いきなり観光課ということで、まだ未熟なところもございませけれどもよろしくお願いたします。

例会報告

早速説明をさせていただきたいと思っております。これは皆さんよくご存知かと思いますが、今後の将来人口推計です。現在高山市は約83,000人の人口ですが、令和27年2045年には6万3千人弱、そして高齢化率も42%という形で、どんどん市を取り巻く状況は厳しくなっております。一方の観光客の推移につきましては、東日本大震災の際に一旦落ちましたが、その後順調に観光客が増加しまして、平成31年には473万3千人のお客様にお越しいただいております。宿泊日帰りとも200万人ちょっとのところなんです。その後新型コロナウイルスの影響で落ち込みましたが、令和5年は1月から12月までで400万人ということで、概ねコロナ前の水準に戻りつつあります。一方外国人宿泊者数、外国人の日帰りというのはなかなかアジア系の方々の判別が難しいので、高山市としまして宿泊者で把握しておりますが、外国人宿泊者も先程ご説明した推移と同じで、コロナ前の平成31年に61万2千人の宿泊者を記録しました。コロナの影響は特に外国のお客様大きかったんですが、令和5年には45万人と回復してきているところでございます。令和4年10月に渡航制限が緩和され、令和5年には5類に移行。令和6年1月から本格的に以前と同じ状況に戻って来たというふうに考えています。続きまして2019年の外国人宿泊者数の内訳です。当時は台湾中国タイ香港といった、東アジア、東南アジアのお客様がメインでした。東アジアが約40%弱、その次に欧州といった構成でしたが、令和5年、中国からの渡航はまだ回復していない中で、欧米のお客様が増えてきているところでございます。

次に市内の宿泊施設数と収容人数の推移でございます。宿泊施設数も減少傾向でしたが、現在施設数が390、そのうち高山地域、旧高山市内については大幅に増加しています。収容人数についても同様です。一方奥飛騨温泉郷を含む上宝地域等については減少傾向という状況でございます。また、種類別の宿泊施設数と収容人数、平成30年1月1日付の宿泊施設数は292施設であったのに対して、令和5年1月1日付では423施設と大幅に増加しています。内訳としましては簡易宿所という、いわゆるゲストハウスが市内で大幅に増えています。また、平成30年施行となった住宅宿泊事業法に基づくいわゆる民泊施設が令和5年で28施設出来ております。それに伴いまして、収容人数も増えております。

これまでの高山市のインバウンド含む国際化等の取り組みをご紹介します。一番大きなきっかけとなりましたのが、昭和61年に当時飛騨地域1市19町村が、国際観光モデル地区に指定されました。それに併せまして、高山市は市政施行50周年のタイミングで国際観光都市を宣言、そこから本格的なインバウンドの取り組みを始めております。昭和62年には駅前観光案内所が「i」、外国人観光案内に指定され、飛騨高山国際協会を設立。平成8年には外国語ホームページを開設。また障害をお持ちの方やご高齢・お子さん連れの方、といった方々のみならず、外国人の方も含めてのバリアフリーのまちづくりの取り組みを開始しました。そういった取り組みを続けてきた中で、平成19年にミシュラン社の旅行ガイドブックで三ツ星に評価されるなどし、それ以降高山市の評価が高まっております。平成23年には、現在の市長が中心になって海外戦略専門部署を作りまして、より積極的なインバウンド対策に取り組んでいます。高山市には、なぜこんな小さい町に外国のお客さんがたくさん来るんだろう、とすごくたくさんの方々の視察にお越しいただいております。その際お話ししておりますのは、やはり外国人旅行者は、見るからに観光施設、というのではなくて、ありのままの暮らし、私たちが普段生活しているものに触れる事を求めているので、高山市だけではなく、日本の国内そこら中にポテンシャルがあるはずだという事です。一方高山市にこれだけのお客様が来る理由として、一口に外国の方を受け入れると言いましても、言葉が分からないと非常に大変なんですけれども、これは行政だけでなく意欲のある民間事業者の皆さん、そして国際度の高い市民の皆さんが、言葉が通じなくともおもてなしの気持ちで外国人の方に接して受け入れる

事ができるかということが重要であり、そういったインバウンドの取り組みを、先程お話ししました通り昭和61年から概ね40年弱かけて継続しているという事が、現在高山市が国際観光都市として評価された現状に繋がっているのでは、とお話ししています。

高山市が具体的にどういったインバウンド受け入れ環境を整備しているかについてです。まず多言語にこだわるということで、外国語のホームページは11言語ございます。パソコン・スマホとも11言語を選択いただいでご覧いただけます。またパンフレットについても、プロモーション用や市内見どころ情報、散策マップ等、それぞれに10言語近く、かつ国・言語・風習等に併せてデザインもすべて変更して作成し、より理解いただけるような形としています。併せてハード面としましては、公衆無線LANサービスの提供や案内表示の多言語化、地域通訳案内士の養成を行っています。公衆無線LANについてはアンケートを設けていまして、外国人の方にどこから来たのか、どこを見てきたか、という事に回答いただき情報収集して今後のプロモーションや環境改善に活用しようという取り組みをしています。また改めて観光施設のバリアフリー、言葉だけでなく身体的な事も含めての受け入れ環境整備について、来週以降議会にお諮りする予定です。

ここ最近特に力を入れている取り組みとしては、高山市ワンストップ医療相談窓口というものがございます。外国からのお客様もしくは在留の方が体調崩されたり怪我されたりした場合に、医者にかかって薬をもらって、っていうところは非常に難しい問題で、例えば、宿泊施設であったり、観光施設とかで相談を受けてもそこから医療機関に繋げるのはなかなか大変ですし、外国のお客さんが直接医療機関に来ると医療機関がその対応に苦慮されることによって、市民の皆さんの生活にも影響してしまう。外国人の方を市内の観光施設や宿泊施設から医療機関へつなぐ窓口を整備しまして、そういった施設とかから電話で「こういう外国人の患者さんが見える」と相談を受けて外国人の方にとって滞在しやすく、また施設の方々も安心して受入していただき、医療機関でも対応し易い環境を整備する事が、結果として市民の皆さんにとっても安定した受診環境の整備にもつながる、というコロナ禍で始まった事業ですが、今後利用者が増えていくと考えております。

次に広域連携の取り組みです。高山市自体はインバウンド60万人、観光客470万人ですが、当然高山市単独ではなかなかお客様受け入れるのが難しい中で、ミシュラン三ツ星をとった松本市や白川郷、五箇山、金沢と連携して「北陸・飛騨・信州3つ星街道」組織をつくって連携したプロモーションを行ったり、あとは昇龍道とよく言われますが、中部北陸エリアの観光地の連携、さらにはユダヤ人へのビザ発給で知られる杉原千畝ルートということで、ゆかりのある自治体と連携したプロモーションも行っています。次に広域の地図掲載しておりますが、明日から北陸新幹線が延伸します。東海環状西回りの開通と2025年の大阪関西万博、2026年には福井から岐阜県への中部縦貫自動車道が全線開通します。こういった様々な動きの中で周辺地から高山にお越しいただく、もしくは高山を拠点に周辺の観光地へ行っていただくハブとなる観光地を目指して取り組んでおります。令和5年度に大阪観光局と連携協定を結びまして、今後飛騨高山また奥飛騨温泉郷など温泉をテーマにした連携を強化していく予定としております。現在もしくは今後の観光のあり方です。観光庁では、6000万人のインバウンド受け入れ、という方向性を出しました。外国人の方の受入には、地方が衰退している中、東京や大阪だけではなくて、やはり地方がしっかりとたくさん受ける。さらに数ではなくて、高付加価値なインバウンド観光地づくりを進めていく、という方向性を一昨年打ち出しました。まずは国内に11のモデルエリアを選定して集中的に投資をして、そのモデル事業を全国展開していく、地方における高付加価値インバウンド事業というものを行う中で、高山市と松本市のエリアがその国のモデルの一つになりまして、現在、両市の関係団体が一体と

例会報告

なってモデル事業の検討をしております。松本高山エリアで共通する部分というのは、昔同じ県あったということであるとか、あとは北アルプス飛騨山脈の山々であるとか、あとは、水・樹木・自然など、そういったものをしっかり繋ぐ。松本・高山の市街地だけではなくて山間地を繋ぐ、一体的なエリアを長期間に渡って滞在いただけるような観光圏を創っていきましょう。その中で、富裕層の皆さんを受け入れていくという考え方でございます。高付加価値という富裕層、お金を持っている人と捉えがちですが、こちらにまず最初に、ある程度地域の歴史、伝統文化、自然に理解を示して、それなりにちゃんとお金を落とすいただけるお客様に来ていただくことが前提でして、それを受け入れるには限られたホテルとか、もしくは移動手段とかになってしまうんですが、それだけではなくて、それを切り口に、今まで発掘されていなかった地域の魅力であるとか歴史文化、なかなか維持の難しくなっているようなものに今一度光を当てて、しっかりとそれに価値付けをして、地域にお金が落ちていくような仕組みを進めていくために、松本高山で推進協議会立ち上げて、現在マスタープランと呼ばれる今後5年間の計画を作っております。こちらは松本市長さんが会長、高山市長が副会長となっており、構成団体は、両市の観光関係団体のほかに金融機関、交通事業者、そして医療機関、さらに行政という形で一体となって今取り組みを進めております。加えましてもう一つあります。外国人のお客さん6000万人日本に迎えるにあたり、これまで保護一辺倒だった国立公園にも日本全国で1000万人の外国人を招き入れようという環境省の「国立公園満喫プロジェクト」という動きが三年前からありまして、これも全国で8つのモデルエリアと3つの準ずるエリアが指定されまして、中部山岳国立公園、こちらは新穂高とかの北アルプス、飛騨山脈から乗鞍へ向かうエリアですけれども、その中部山岳国立公園南部地域、松本・高山のエリア、これが指定されまして集中的な投資がされております。松本市街地と高山市街地を大きな架橋で繋ぐ「Big Bridge (ビッグブリッジ) 構想」と銘うちまして様々な検討されております。立山黒部アルペンルートというのご存知かと思いますが、松本高山というのは一体的な場所として認知されていない。関東の方は上高地に行って帰ってしまう。関西の方は奥飛騨や乗鞍へ行ってそのまま戻ってしまうんじゃないかと、さらに突き抜けてお互いに行き来していただけるような名称として「北アルプストラバースルート」という愛称を作りまして、現在売り出しながらこのエリア一体的な活性化につなげているところでございます。このようにして、松本高山エリアっていうのは、観光庁、環境省等々、最近では文化庁もそうなんですが、非常に注目されておりますし、様々な国内の大手の企業さんからの相談、関わりたいという話が私共の方にも入ってきています。ただ大事なことは地元の方がこの事を通じてしっかりと地域にお金が落ちて、持続可能な生活をしていけるかどうかということなので、そういったところを重視しながら取り組みを進めています。併せまして今年度、観光庁の持続可能な観光推進モデル事業という補助金、これ10/10の事業なんですが、それを受けまして取り組みをしました。これは何かと言いますと、コロナ明け、たくさんのお客様がお見えになりました。特に古い町並みは大勢のお客様で賑わう一方、そこで暮らしている方にとっては、よくある話でゴミの問題ですとか、騒音、交通マナーの問題、そういったところが目についてネガティブな印象になってしまう。その中で観光課では今年度当初に事業者さんにヒアリング行いましたところ、観光関連事業者の方々からは、なかなか人手が足りない。為替の問題や原油高によって、利益が圧迫されて、もう人数を追うことだけではついていけない。事業を安定的に継続していくための指標の把握が大事である、との回答が寄せられました。また外国人のお客様からは、飲食店のキャパシティや二次交通が不便である事、ガイドの不足などの声があり、人手不足の問題が旅行者の満足度に影響を与えていると考えられます。そして住民の皆様にとっては暮らしの快適性に影響を及ぼしている、とい

う事が懸念され、市民の皆さんの満足度もしっかりと確認していく事が必要としています。これらの課題を数値として指標化して毎年継続して調査を続ける事で安定した観光地にしていくためのモデル事業としました。アンケート結果について、マイナスの影響として挙げられるのが交通渋滞や混雑、マナー違反、物価の上昇や環境破壊、といった意見を市民の皆さんからいただいています。これまでこの様な声が挙がっているという個別の数字で政策の検討を行っていましたが、これがどういう年齢の方、どういうお仕事をされている方、そういったクロス集計、さらに細かなものを大学の先生と連携しながら、例えば高山市民の8割の方は観光客にお越しいただけることを誇りに思っている一方、子育て中の主婦層の方はあまり観光客に来て欲しくない、もう少しゆっくり安定して子育てに努めたいとか、あと移住して一年しか経ってない方にとってみると、せっかく静かな高山に来たのに、人がたくさん来てちょっと賑わしいな、とか。というふうにさらに細やかなそれぞれの皆さんの思いであるとかご意見とかがまとまって来ています。そういったことを踏まえて、行政として今後どう手を打っていくか、住んで良し訪れて良しの国際観光都市の高山としていくか、次年度以降の事業に取り組んでいく予定としております。こちらについては2月に市長以下報告会を開催しております、出来る事から一つ一つということで、このQRコードから市長のYouTubeご覧頂けるんですが、外国人の皆さんに、マナーを守れゴミを捨てるなって言う話だけでなく、飛騨高山のこの歴史伝統文化や古い町並み、豊かな自然というのは、ずっと住んでいる私たちがしっかりと守り育てて大切にしてきた結果として、美しい町が守られています。こういった事をしっかりと理解して、高山の街を楽しんでほしいという趣旨の動画を配信しています。まだ視聴回数500件弱と少ないですが、こういった取り込みでまずは英語版、今日からは中国語も対応、そういったことを通じて、旅行者の皆さんに情報を発信しています。

最後に、高山市は国際観光都市として様々な積み重ねがされ成熟しております。観光観光という観光の関係者だけでなく、訪れるお客様のお金がしっかりと住んでいる市民の皆さんに還元され、それによって持続可能な地域づくりに繋げていく。観光を柱にした地域経済から、持続可能な地域づくりのために観光のノウハウをいかに活用していくか、という方針策定しています。基本方針については記載の通りでございます。観光を活用した地域づくりの体制をしっかりと整えて、その基盤を強化しながら、住んで良し訪れて良しの国際観光都市飛騨高山の実現を目指して行くこととしております。観光産業というのは、直接的な経済効果の算出が難しく概算となりますが、高山市の特別会計全部合わせますとだいたい940億円になるんですけども、その940億円程度のお金を観光客の方々が落として行っている、それで賄っているというか、それぐらいのお金が直接的な売上として落ちております。さらに雇用だとか二次三次の間接的な効果を考えますと、観光産業というのは非常に大きな役割を担っている一方、そういった周知が行政としても行き届いていない部分もありますので、しっかりとみなさんに共有しながら、更に住みよい、そしてなかなか人手が足りない子育てが大変だ、っていう所も賄っていけるような、そういった思いで今後観光行政に取り組んで参りたいと思いますので、引き続きご指導いただきたいと思っております。本日は貴重なお時間をいただきまして、誠にありがとうございました。

質問 最近の高山に来られるのは外人さんはばっかりで、日本人は本当に少なく見えます。外人さんは長期、高いホテルに泊まれているみたいですが、実情と高山市としてはどうお考えなのかお聞かせ下さい。

回答 地元の方も外国人だけでなく出来れば日本のお客様にたくさん来ていただきたいというのが本音だと思っています。状況としては、コロナの影響で日本の団体旅行がまだ回復しておらず、イ

例会報告

ンパウンドと比較して日本人のお客様の戻りが少ないというのが実情です。私どもとしましては、テレビ番組等で中部北陸圏であるとか近隣の日本人のお客様にきていただけるような誘客活動に力を入れている所です。修学旅行もコロナの間は結構高山にお越し頂いていたんですが、コロナ明けてももともと行っていた所へ、という傾向がありまして、若干苦勞していますけれども、なんとか日本人のお客様にきていただきたいと考え、修学旅行へのクーポンの助成などを行っています。宿泊施設について、高山は民泊ですとか大変増えておりまして、単価についても様々あります。対して、例えばニセコですとか、宿泊施設もそうですが食事も数千円以上と、逆に住んでる方にとっても負担が大きくなっているという状況が国内各地で色々出て来ています。本当にどういう形がいいのか、やはり住んでいる方が良くないと、私たちが外からのお客さんに高山においてという気持ちにならないと思いますので、そういうことではこれからさらにしっかりと、力をいれていきたいと思っています。

質問 非常に懸念しているのが、例えば高山市をウィキペディアで見ると「夕食難民」って出て来ます。以前からの旅館さんとかホテルさんはだいたい夕食提供ができますけれども、最近できたホテルとかほとんど朝食しか出さない。夕食出さず、出してもちょっとしか出さなくて、この食事ができない人たちが市内をウロウロ回って、地元の小さい居酒屋さんとかはみんな断わっちゃうことが多いので、結果、ラーメン屋さんに長蛇の列ができてしまう。これが続くと高山に泊まっても食事ができないんだ、ということで高山から逃げていくのではないかと。事実、例えば高山市内ではなくて、奥飛騨に行くと言う話を聞いたりするんですけども、夕食難民への対応策というのはどうしているのか教えてください。

回答 働き手不足に関しまして、観光産業に限らず全ての業種で皆さんお困りのことと考えております。どこもかしこも高山含む日本全国の多くの地方都市が同じような状況にある中で、市においても商工・雇用関係部局のみならず色々人材確保、人材育成等に取り組んでおられますが決定打にいたっていないところなんです。外国人の働き手も、各企業さん個別に努力をされながら確保されていると思いますが、そちらもなかなか難しかったりということで、今一番人材不足というところが後程お答えします今の「夕食難民」の部分に間接的に繋がっていたりとかします。この今の人材不足については、現在この場で具体的にお答え出来るところではないのですが、就業人口だけでなく、これからの子育てであるとか、さまざまな行政全体に非常に大きな影響性を及ぼす、重要な問題と認識しております。あと「夕食難民」の件についてはおっしゃる通り、今年の春から一気に特に外国のお客様が回復してきたことに伴い、泊食分離をしているホテルのお客様が市街地に出てもご飯食べられない。せっかく高山に来て頂いても、高山らしいものを食べていただけない、大きな課題となっています。市としましては、商工会の皆さんの協力いただきながら、うちは外国人来てもいいけど、ちっとも来ないんだっていうお店とのマッチングであるとか、ある程度団体のお客様を受け入れるところがない中で、バスでお客様を運送してくれる、ちょっと郊外の支所地域の広い飲食施設のアンケートをとっています。駐車場の問題も同じで、様々な課題について今年、関係の業者様中心にご意見をいただいていますので、一つ一つに取り組んでいるところで。

質問 先日、金沢の方とお話をしていたら、1月の地震で輪島の朝市も壊滅してしまって、これまでの輪島らしい部分が無くなってしまっていて、とても観光地ではなくなったということをお客様が言われていたんですが、高山も同じだよなと。もし古い町並みの辺りが焼けたら無くなったりしたら、高山の山たる所がなくなってしまう可能性があるんだということで、そうならないための、対策と言いますか、予防策みたいなものはどんなものが用意されているのか教えてください。

回答 直接的な担当ではないので申し訳ないんですが、やはり今回の3月議会の一般質問の中でも、まさに今言われた古い町並みで火が出てしまったら、輪島朝市と同じようになってしまうのでは、というご質問もありました。そちらについては、数十年前からの課題の中で、例えば防火壁を作ったりとか、いろんな現在の様々な仕組みを使って早期に見つけたりとか、また古い町並みに住んでいる方がたくさんいらっしゃればいいんですけど、もしかしたら外から商売にだけ来ていて夜はいらっしゃらなかったり、という事もあろうかと思われまして。古い町並みを中心とした大地震・大災害に伴う火災っていうのは本当に今改めて、もともとあったんですけど、改めて私共含め大きな課題としてこれから検討していく形になるのかなと思います。ちょっとずれますが、輪島につきましては、高山市の宮川・陣屋前の朝市は、輪島の朝市と連携協定を結んでおりまして、今回あの様な形になったことに対して、高山市内の朝市組合としても何かできないかということで、現在、先方の組合と連絡を取りながら今後の支援策を検討している所です。

<ニコニコボックス>

●下屋 勝比古さん、塚本 直人さん

本日は国際奉仕委員会担当例会です。ゲストは高山市飛騨高山プロモーション戦略部観光課長の山郷 三昭 様です。卓話を楽しみにしています。高山にもインパウンドが戻って参りました。これからの高山市観光の将来像を教えてくださいと勉強になります。

●野尻 陽子さん

国際奉仕委員会の担当例会です。本日は高山市飛騨高山プロモーション戦略部観光課長の山郷 三昭 様にお話しいただきます。よろしくお願いたします。

●平 康裕さん

先日下屋会長と七尾ロータリークラブに行ってきた。当日は自分の誕生日でもあり、プレゼントまで頂き、とてもいい勉強させていただきました。

●岡田 賛三さん、田近 毅さん、内田 幸洋さん、斎藤 章さん、古橋 直彦さん、田中 武さん、大村 貴之さん、杉山 和宏さん、中島 一成さん、堀 幸一郎さん

寒い日が続きますが、この飛騨にもようやく春の足音が聞こえる季節になってきました。そこで一句『初桜 折しもけふは 能日なり 松尾芭蕉』

人間力を高める

第 25 回

平 康裕

当クラブに入会して 8ヶ月が経ちました。会員も皆さんに色々勉強させていただきながら今日に至ります。最初は父のつきそいで軽い気持ちで入会しましたが、皆さんと接する機会が増え、自分なりに考えることが沢山あり、仕事のこと、家族のこと、地域のことなど、いままでの自分では思いもしない発想や人としての行動など、日々勉強になることばかりです。

先日、下屋会長と石川県七尾市のロータリークラブに同行させていただきました。震災の影響は想像よりも酷く、全壊棟している建物が沢山あり、商店街お進入禁止の赤紙が貼られているお店が沢山ありました。そんな中、七尾ロータリークラブの皆さんは被災しているにもかかわらず、沢山の方々が例会に出席し、地域の復興のために頑張ろうとしている姿に、気が引き締まる思いをしました。これがロータリー精神だと思いました。

今自分に何が出来るか、何を求められているか、それをどう行動に移すか、自分なりに考える機会になりました。早期の復興を心よりお祈り申し上げます。

今後ともよろしくお願いたします。